



デジタルへの挑戦

Taylor Jamesは、AMD FirePro™ V7900プロフェッショナルグラフィックスとV-Ray RTから素早くレンダリング・フィードバックを得ています

現実、それともCGI?

未来を感じさせる眺望や奇異なストーリーから、コンピュータによって生成された画像 (CGI) を見ていると思うのですが、あまりに現実的なビジュアル品質であるため、それを単なる架空の世界だと受け入れるのに頭が混乱しています。そして、粋なCGIと素晴らしい実写や説得力のある写真を巧みに組み合わせることにより、その境界はさらに曖昧になります。それが、まさにTaylor Jamesの作り出す世界です。

他社とは違う創意に溢れたキャンペーンによってブランド力を高めようとする場合、多くの企業がハイエンドのクリエイティブ・プロダクション・スタジオであるTaylor Jamesに声をかけてきます。Taylor Jamesは、イノベティブなストーリー作りのために同社のデジタルプロダクションのノウハウにドラマ性とウィットを味付けることで、全世界のクライアントに放送媒体、インタラクティブ媒体や印刷媒体向けの革新的なコマーシャルコンテンツを提供しています。Taylor Jamesのクライアントには、インフィニティ、トヨタ、ハイネケン、ギネス、プリティッシュ・エアウェイズ、トルコ航空などが名を連ねています。ロンドンとニューヨークにオフィスを構えるTaylor Jamesは、従来のプリントプロダクションと同様にデジタルプロダクションへの挑戦においてゆるぎない地位を確立しています。

メガ・ファイルの取り扱い

お客様の期待はますます増大しています。その一方で、制作期間が短縮し続けています。この中で、Taylor Jamesにとってワークフロー効率の改善はますます重要性を増し、これに伴ってハードウェアとソフトウェアについて継続的な見直しが必要になっています。同社はAutodesk® 3ds Max® を使用しており、近年はCHAOS Groupのレンダリング・エンジンV-Ray上で標準化を行っています。ビジネス開発部門の責任者であるキース・ジェフリー (Keith Jeffery) 氏は、次のように説明しています。「V-Rayによって、素晴らしいレンダリング性能と一貫性がもたらされました。他のいくつかのソリューションは、直感性と柔軟性において及びません。」

Taylor Jamesのビジュアル・アーティストは、巨大なデータ・セットの取り扱いでAMDのグラフィックス・ハードウェアに絶大な信頼を置いています。キース氏は、さらに次のように語っています。「当社のモデル・サイズが非常に大きいことを考えると、AMDがソフトウェア・ドライバーとカードに対して行っている広範な高度化が大変重要な意味を持ちます。」

事例企業: Taylor James

業界: ブロードキャストプロダクション、インタラクティブプロダクション、プリントプロダクション

ビジネス機会:

- お客様とのコミュニケーションおよびプロダクションの品質を向上させる

ソリューション:

- AMD FirePro™ V7900プロフェッショナルグラフィックス
- Dellワークステーション
- CHAOS GroupのV-Ray RTレンダリング・エンジン

ビジネスへの影響:

- 信頼性の高い迅速なフィードバックにより品質が向上
- テスト・レンダリングに費やす時間を削減し、創造的なインプットを増大
- 低コストで簡単かつ即座にハードウェアをアップグレード

AMD FIREPRO™ V7900の概要

- 1280のストリーム・プロセッサ
- 2GB GDDR5
- 160 GB/秒のメモリ・バンド幅
- 4ディスプレイ対応のAMD Eyefinity
- DisplayPort 1.2 x 4



Case Study: AMD FirePro™ and Taylor James

Taylor Jamesは、2011年にAMD FirePro V7900 プロフェッショナルグラフィックスの使用を開始しました。「これで、性能が1段階向上しました。AMD FirePro V7900は2GBのオンボード・メモリーを備えた非常に強力なカードであり、以前は処理に苦慮したデータ・セットを取り扱えるようになりました。」と語っています。首席R&Dアーティストであるデービッド・ワートリー (David Wortley) 氏は、この点について次のように賛同しています。「V7900は、当社が保持する既存の各カードと比較して格段に高速です。」

AMDのグラフィックスの計算パワーにより、Taylor Jamesは、CHAOS Groupの最新リリースであるV-Ray RT (Real-Time) をテストに使用できます。これは、Autodesk® 3ds Max®にとって、この種類の最初のレンダラーです。このインタラクティブなレイアウト技術により、定常的なフィードバックを取得できるようになって、3Dデザイン・アーティストとビジュアライゼーション・スペシャリストが照明とシェーディングを設定する方法が大きく変わりました。

リアルタイムの素晴らしいフィードバック

デービッド氏は次のようにコメントしています。「AMD FirePro V7900とV-Ray RTの組み合わせは本当に格段に高速です。大規模なシーンを処理しているときでも、画面上でデータを操作すると大変迅速に応答が得られます。光沢、反射、半透明などの選択肢を探っているときにも、いったん停止したり、時間のかかるレンダリング・プロセスを経たりすることなく結果が得られます。これは、当社が開発している立体視画像では特に明白です。レンダリング形式の変化を即座に確認する機能があるので、クライ

アントに素晴らしいフィードバックを渡すことができます。クライアントがCGIプロセスに慣れるのに従って、ライブで共同作業を行ってビジュアライゼーションの選択肢を示し、格段に迅速に微細な調整を行うことができます。」

キース氏は続けます。「当社で使用する多彩な素材やシェーダーを指定すると、最終的にフルV-Rayで達成される画像を、V-Ray RTソリューションで実際に確認できるため大変に重宝しています。制作の前段階でこのレベルの品質が得られることにより、最終的な制作レンダリングの費用を承認する前に、クライアントとリアルタイムのレビューを行う機会が得られます。企業として、われわれはテスト・レンダリングで節約した時間を有効活用し、創造的なインプットを最大限に引き出しています。これによって、クライアントをお待たせる時間を短縮するとともに、かつてない作業品質の向上を達成できます。」

将来の拡張性

AMD™ FireProプロフェッショナルグラフィックスとOpenCL™ (Open Computing Language) で動作するV-Ray RTの組み合わせは、現時点で優れた速度と性能を提供していますが、将来に向けて拡張性の扉も開きます。OpenCL™ によって、以前はワークステーションのCPU (Central Processing Unit) で処理していた重い計算負荷を、グラフィックスカードのGPU (Graphics Processing Unit) で処理できるようになりました。AMD FirePro™ プロフェッショナルグラフィックス製品には独自のAutoDetectテクノロジーが組み込まれているため、コンピューティング・パワーが必要になるのに伴って、パフォーマンスを最適化するようにグラフィックス・ドライバの設定が自動的に行われます。

「ここしばらくGPUレンダリングに注目してきました。そして、市場を評価しているところです。プログラムをCPU上でのみ実行するとパフォーマンスに限界がありますが、処理をGPUに分散することによりコンピューティング・リソースを拡張して活用できます。GPUの価格性能比はCPUよりも実質的にかなり高く、またV7900がバンドルされたマシンは、他の競合製品と比較して格段に費用効果が高いソリューションであると感じています。」とキース氏は語っています。

キース氏は、OpenCL™ がリアルタイム・レンダリングの標準言語として発展すると考えており、またTaylor Jamesは、ビジネス上のメリットの活用を計画しています。「GPUベースのレンダリング・ソリューションにより、基本ハードウェアを実際にアップデートすることなく、ハードウェアの性能を向上させることができます。カードを追加した分だけ、V-RayとAMD FirePro V7900でより高い性能を達成できます。その限度は、装着できるカード数によってのみ決まります。」



「企業として、われわれはテスト・レンダリングで節約した時間を有効活用し、創造的なインプットを最大限に引き出しています。これによって、クライアントをお待たせる時間を短縮するとともに、かつてない作業品質の向上を達成できます。」

Taylor James社、ビジネス開発責任者、キース・ジェフリー (Keith Jeffery) 氏

jp.amdfireprohub.com

本書に記載する情報は、情報の提供のみを目的とするものであり、技術的な不正確性、不作為、および誤植が含まれる可能性があります。本資料に含まれる情報は変更されることがあり、多くの事由によって不正確になることがあります。これには、製品およびロードマップの変更、コンポーネントおよびマザーボード・バージョンの変更、新モデルおよび/または製品リリース、異なる製造者間での製品の相違、ソフトウェアの変更、BIOSフラッシュ、ファームウェア・アップデートなどを含みますが、これに限定されるものではありません。AMDは本情報の更新または本情報の訂正ないし改訂に関して一切の義務を負うものではありません。しかしながら、AMDは、本情報の改訂および変更に関して何人に対してもAMDによる通知の義務を負うことなく、任意の時点で本情報を改訂する権利、および本書の内容を変更する権利を留保するものとします。

AMDは、本書の内容に関して一切の表明および保証を行わず、また本情報に含まれるすべての不正確性、誤り、および不作為に対して一切の責任を負わないものとします。AMDは、本製品の商品性および特定目的への適合性について、一切の黙示保証をいたしません。本資料に含まれる情報の使用に起因する、直接的、間接的、または派生的損害に対して、たとえAMDにかかる損害賠償の可能性が明示的に通知されていた場合にも、一切責任を負わないものとします。

© 2013 Advanced Micro Devices, Inc. All rights reserved. AMD, AMD Arrowロゴ、およびこれらの組み合わせは、米国または他の地域にて登録されたAdvanced Micro Devices, Inc.の商標です。OpenCLは、Apple, Inc.の商標であり、Khronosの許諾の下で使用されています。その他のすべての製品名は情報提供のみを目的としたものであり、それぞれの所有者の商標である場合があります。SC1/13

